

新春対談

大崎市古川地域出身でボクシング5階級制覇を果たした、おおさき宝大使の藤岡奈穂子さんと伊藤市長が、大崎市との絆や夢について、語り合いました。



現役生活を振り返って

市長 新しい年を迎えましたが、藤岡さんは、昨年にボクシング選手としての現役生活を終えましたね。24年も続けるとは、思いませんでしたか。

藤岡 思いませんでしたね。

市長 24年間頑張られたのはどうしてですか。

藤岡 元々、プロになるつもりはなかったのですが、上京して頑張ってたんですけど、チャンピオンになることができて、だんだん東京に住んでいる宮城県出身の方たちになり知ってもらえるようになりました。そこから応援の輪が広がっていき、ボクシングを通じてたくさんの方たちと出会って、応援していただいて、それで続けることができましたのかなというのがありますね。

市長 アマチュアからプロへの転向はかなりの決断だったと思いますが、迷いはありませんでしたか。

藤岡 当時、女子のプロボクシングは立ち上がったばかりでした。選手も少なく、対戦相手を探すのが大変でしたが、常に試行錯誤というのを模索していったんです。

藤岡 どうなるか分からないプロの世界に行くのは自分も不安でしたが、親も大反対でした。

市長 プロ転向後は、トントン拍子で、試合に出場すれば勝ちましたよね。一つのタイトルを取るだけでも大変でしょうけれども、5階級制覇まで達成できたのは、よほどの精神力や過酷なトレーニング、健康管理が伴ったと思いますか。

藤岡 当時、女子のプロボクシングは立ち上がったばかりでした。選手も少なく、対戦相手を探すのが大変でしたが、常に試行錯誤というのを模索していったんです。

市長 平成23年の東日本大震災の年に、タイトルマッチで初の世界タイトルを獲得しましたよね。震災で皆さんの心が折れそうになったときに、タイトルを獲得して、ベルトを持って凱旋していただきました。慰問に訪れ、炊き出しなどにも参加していただき、皆さんに元気や勇気、夢を与えていただきました。



◀WBC女子ミニフライ級の世界チャンピオンに輝いた藤岡奈穂子さん(平成23年)

市長 平成23年の東日本大震災の年に、タイトルマッチで初の世界タイトルを獲得しましたよね。震災で皆さんの心が折れそうになったときに、タイトルを獲得して、ベルトを持って凱旋していただきました。慰問に訪れ、炊き出しなどにも参加していただき、皆さんに元気や勇気、夢を与えていただきました。

市長 子どもたちが夢を持ってスポーツができる環境を作っていかなければなりませんよね。

市長 昨年五月、市役所の新庁舎が完成しました。今年は駐車場が整備され、たくさんの方々をお迎えできるようにいたします。藤岡さんがこれからはますます羽ばたくように、私たちが大崎市を世界に、全国に発信していきたいと思っております。

市長 陸羽東線を残すべく、危機感を持ってさまざまな取り組みを行っているところなんです。

藤岡 今、ウクライナやパレスチナ自治区、他の地域でも



市長 「おおさき宝大使」として、故郷・大崎市の印象はどうですか。エールを送りたいことはありますか。

藤岡 世界農業遺産に認定されていますし、大崎の田んぼは誇りですよ。大崎に帰ってきて田んぼを見ると心が落ち着きますし、安心します。

市長 大崎の子どもたちに託したい夢はありますか。

藤岡 現代の子どもたちは、大人といえますか、おとなし



藤岡 そういう機会をつくっていたらいいなと思ってたんですけど、藤岡さんのような方が、ボクシングにも親近感を持っていて、皆さんが大変なときに自分もボクシングを辞めようかなと思ったこともあり、今は藤岡さんの試合しか楽しみがないから頑張っているという声を聞いて、初めて世界チャンピオンになりました。強く思いました。試合では、チャンピオンから2回ダウンを取ることができて、神がかりな感じというか、不思議な感覚の試合でした。

藤岡奈穂子さんに特別感謝状が贈呈されました

令和5年11月23日、伊藤市長から藤岡奈穂子さんに特別感謝状が贈呈されました。

世界5階級制覇を果たし、プロボクシングの第一線で活躍しながら、青少年の健全育成や本市のPR活動などの社会貢献活動に取り組んだ功績は、市民に勇気と感動を与えました。

藤岡さん、24年間お疲れ様でした。